

春日井市初のママイベント 「第一回ママの文化祭」 報告書

日時 平成26年2月26日(水) 10:00~15:00

場所 春日井市総合体育館

主催 あいち かすがいっこ

後援 日本財団 中日新聞社

共催 株式会社ECS 有限会社フジヤカシモノ 春日井商業高校

物品協賛 株式会社吉浜人形 大王製紙株式会社

来賓 春日井市商工会議所 会頭 松尾隆徳様

協力・応援 木野瀬印刷株式会社 代表取締役 木野瀬吉孝様

合資会社水徳 代表社員 水野隆様

オフィスアールエス 代表 佐藤玲子様

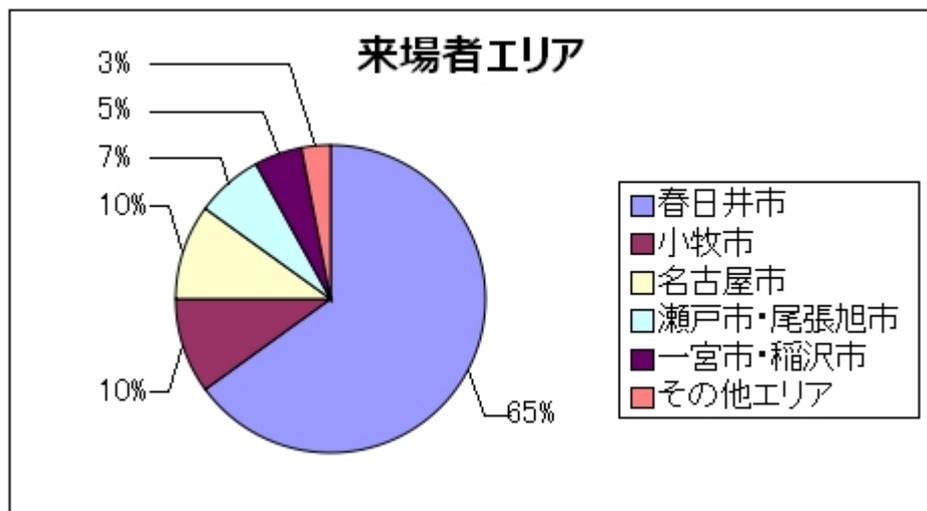
NPO法人あっとわん 代表理事 河野弓子様

警備 有限会社大一

出展企業 38企業

来場者数 5時間の間に、約1,700組 3,000人以上(関係者除く)が来場

※パンフレット配布部数より算出 2,500部印刷 残700部



抽選用紙に記入されたデータより算出。

※10:00~12:00までの間にママブースにてお買い物をし、12:30~13:00に開催した抽選会に参加された方対象。

◆なぜ「ママの文化祭」を開催したのか？

春日井市にはママのためのイベントが開催されていなかったため

春日井市内で活動する子育て支援団体がつながる場所や発表する場がなかったため

◆告知媒体

中日新聞近郊版

春日井くらしのニュース

中日新聞ショッパー

中日ホームサービス

ケーブルテレビ

月刊はるる 1月号・2月号（有料）

予算がなかったため、有料媒体での告知ができなかったが、

自団体のブログとフェイスブック等のSNSによって集客を図ることができた

◆「ママの文化祭」を開催してどうだったのか？

・ママ（参加者）にとって

自分と同じ様な環境の女性が頑張っている姿を見ることで、漠然とした憧れや想像ではなく、等身大の自分を想像でき「わたしもそんなママになりたい」と感じる
ことができた

ボランティアを通して、「結婚・出産後途絶えていた”社会とつながり”がもてた

・ママブース出店者にとって

ママが「ひとりの女性」として認めてもらえる場となった

産後、社会から離れていたが、また社会とつながるきっかけができた

子どもがいることで、初めの一步を踏み出すことを躊躇してしまいがちだが、

「みんな同じ気持ちなんだ」ということで安心できた

目的をもってきてくださるお客様が非常に多かった

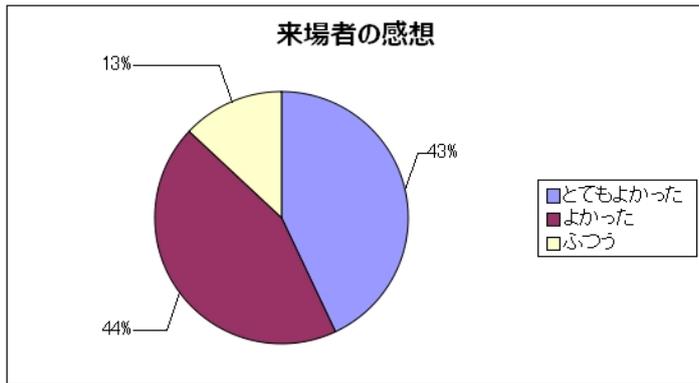
・子育て支援団体にとって

春日井市内の子育て支援に携わる団体同士が、1年に活動の成果を発表したりする
場があることにより、団体の意識向上が図れた

・企業にとって

企業・事業・商品のPRができた

目的を持ったお客様に出会えた（サンプルのみ目的のお客様ではなかった）



「月刊はるる」ブースにおいて開催した抽選会アンケートより算出

「あまりよくなかった」
「期待以下」という感想はありませんでした

・かすがいっこにとって

母親になった女性だからこそできる「ママのちから」を知ってもらうことができた
日本財団 ポストツリーにおいてママたちの声を集めることができた
立ち上げた3人だけでは何もできないが、総勢200人以上のママが関わってくださった
おかげで「ママのパワー」が集結し成功へとつながった
「ママのためのイベント」を、この地方都市春日井のママ達も求めていたことが実証された
「来年も是非参加したい」と企業の方からうれしい声を頂いた

◆（仮予約）平成27年2月26日（木） 「第2回ママの文化祭」開催予定

第1回来場者数を上回るために必要な対策

- ・準備期間・・・実行委員会3名→増員を行い、実行委員会設立時期を8月とし準備期間を半年とする
- ・費用の見直し・・・出展料の値上げを図り、人員の追加・質の向上・警備の増員・託児施設設置を行う
(第1回 企業一律3万円)
- ・来場時間の分散化・・・来場時間が集中するため、そこから起こる交通渋滞の回避
- ・春日井市子ども政策課の協力・・・子ども政策課→子育て支援登録団体への呼びかけ
ささえ愛センター→市内団体への呼びかけ
社会保障協議会→ボランティアさんへの呼びかけ
- ・託児ボランティアの養成・・・子連れのママ・子どもがイベントに参加できるよう一時預かり場所を設置する

以上